

エコアクション21

# 環境活動レポート



対象期間 2017年4月1日～2018年3月31日

**ASPEC**  
株式会社アスペック

2018年6月14日 作成

## 【目次】

1. 組織概要	.....	1
2. 認証・登録の対象組織・活動	.....	2
3. 主な実績	.....	3
4. 環境方針	.....	4
5. 環境目標及びその実績	.....	5 - 6
6. 環境活動計画	.....	7 - 9
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	.....	10 - 15
8. 環境関連法規制の遵守状況	.....	16
9. 代表者による全体の評価と見直し	.....	17

# 1. 組織の概要

## ■ 事業者名及び代表者名

株式会社 アスペック 代表取締役 楠 茂夫

## ■ 所在地

本 社 長野県長野市大橋南二丁目15番地  
資材倉庫 長野県長野市真島町真島字梵天東沖1148他

## ■ 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 楠 茂夫  
担当者及び連絡先 工事部工事課 荒井勇治 電 話：026-283-2051  
総務部総務課 内川淳子 FAX：026-284-8699  
HP : <http://kk-aspec.co.jp/>  
E-mail: [info@kk-aspec.co.jp](mailto:info@kk-aspec.co.jp)

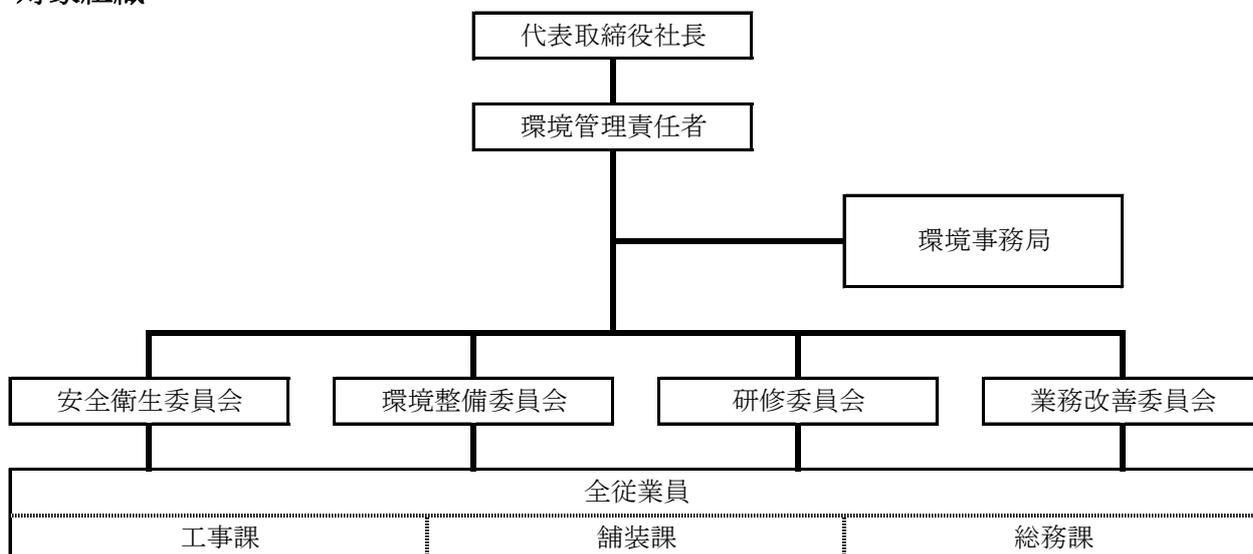
## ■ 事業内容

- ・建設業（主に土木工事、舗装工事及び側溝補修）
- ・産業廃棄物収集運搬業

## ■ 事業の規模

設立年月日 平成 4年 1月 1日  
資 本 金 5,000 万円  
売 上 高 1,202 百万円  
第27期(平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 3月31日)  
従 業 員 30 名  
延べ床面積(本社) 1,139 m<sup>2</sup>  
敷地面積(資材倉庫) 1,976 m<sup>2</sup>

## ■ 対象組織



## 2. 認証・登録の対象組織・活動

### ■ 対象範囲(認証・登録事業者名)

登録事業者名	株式会社アスペック
対象事業所	本社・資材倉庫(常駐者なし)、全組織・全活動・全従業員を対象
活動範囲	土木工事業、舗装工事業、道路側溝補修業 及び 産業廃棄物の収集運搬

### ■ 許可の内容

#### ◆ 建設業

許可番号	長野県知事 特-26 第17532号
許可の有効期限	平成27年 2月17日 ~ 平成32年 2月16日
建設業の種類	土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、造園工事業、水道施設工事業

#### ◆ 産業廃棄物収集運搬業

許可番号	長野県知事 第2008056549号
許可の有効期限	平成25年10月12日 ~ 平成30年10月11日
建設業の種類	がれき類、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは自動車等破砕物を除く)

### ■ 施設等の状況

積替え保管	なし
運搬車両の種類と台数	2tダンプ 3台
	3tダンプ 3台
	3. 5tダンプ 1台
	4. 2tダンプ 1台
	7. 2tダンプ 2台

### 3. 主な実績

#### ■ 環境負荷の実績

項目	単位	2015年度	2016年度	2017年度	(金額)
二酸化炭素排出量	kg-CO2/年	207,489.4	203,110.2	204,897.2	
電力(事務所)	kWh/年	25,895.0	25,475.4	29,066.0	(657,295円)
灯油(事務所)	ℓ/年	1,964.3	1,636.4	2,434.1	(201,319円)
ガソリン(現場)	ℓ/年	17,440.1	15,804.2	15,772.2	(2,099,269円)
軽油(現場)	ℓ/年	54,459.3	54,707.7	53,127.8	(5,941,397円)
廃棄物排出量					
一般廃棄物(事務所)	kg/年	181.8	179.2	267.9	
産業廃棄物(現場)	t/年	2,574.6	3,635.9	2,862.4	
総排水量(事務所)	m <sup>3</sup> /年	369.0	338.0	317.0	
ネプラス工法(現場)	千円/年	1,382	15,120	19,229	
太陽光発電(事務所)	kwh/年	33,787	34,479	33,645	

※購入電力の排出係数は、平成26年度の二酸化炭素排出係数：中部電力 0.497(kg-CO2/kWh)

※井戸水は排水量に含まれていない。

#### ■ 収集運搬の実績

項目	2015年度	2016年度	2017年度
がれき類	161.7 t	91.0 t	690.5 t
廃プラスチック類	1.8 t	0.0 t	0.0 t
金属くず	0.0 t	0.0 t	0.0 t
木くず	0.5 t	0.0 t	0.0 t
紙くず	0.0 t	1.9 t	0.0 t

## 4. 環境方針

### ◆◆◆環境理念◆◆◆

アスペックは舗装工事を主とした土木関連事業を通じ、企画提案力と顧客最優先のサービスで地域社会に貢献する建設会社として、当社が掲げる『明るい職場と家庭の繁栄を創造します』の経営理念に繋がる、地球環境の保全を企業活動の最重要使命とします。

### ◆◆◆環境方針◆◆◆

私たちは、これからの地球環境との調和を図れる技術の推進、環境保全が重要課題との認識に立ち、次世代を担うにふさわしい専門工事業者として、環境に配慮した職場づくりと、一人ひとりの社員が主役の環境貢献活動が不可欠であることを念頭に、常に新しい創造性に挑戦し、循環型社会の一翼を担う企業として、自主的・積極的に環境への取り組みを推進します。

### ◆◆◆行動計画◆◆◆

- 1 具体的に次のことに取り組みます。
  - 1) 電力・自動車及び重機械燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
  - 2) 建設資材の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再利用化)の推進
  - 3) 水資源の節水
  - 4) 事務用品のグリーン購入
  - 5) コピー用紙の削減
  - 6) 環境に配慮した施工(ネプラス工法)の推進
  
- 2 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。



制定日 2010年10月26日  
改定日 2010年11月18日  
改定日 2011年 4月15日

代表取締役社長 楠 茂夫

## 5. 環境目標及びその実績

環境目標項目	単位	基準値		過去の実績		今年度	中長期目標	
		2012年度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量 	kg-CO2/年	247,588.0	削減率	9%	10%	11%	12%	13%
			目標	225,305.1	222,829.2	220,353.3	217,877.4	215,401.6
			実績	207,489.4	203,110.2	204,897.2	—	—
電力使用量 <small>購入電力の排出係数は平成26年度の二酸化炭素排出係数: 中部電力0.497(kg-CO2/kWh)</small>	kWh	39,218.0	削減率	10%	12%	14%	16%	17%
			目標	35,296.2	34,511.8	33,727.5	32,943.1	32,550.9
			実績	25,895.0	25,475.4	29,066.0	—	—
灯油使用量 	L	2,773.6	削減率	10%	12%	14%	16%	17%
			目標	2,496.2	2,440.8	2,385.3	2,329.8	2,302.1
			実績	1,964.3	1,636.4	2,434.1	—	—
ガソリン使用量 	L	19,609.2	削減率	6%	8%	10%	12%	14%
			目標	18,432.6	18,040.5	17,648.3	—	—
	原単位 (L/百万円)	353.4	目標	257.4	236.8	318.0	311.0	303.9
			実績	257.4	176.2	233.6	—	—
軽油使用量 	L	63,961.1	削減率	6%	8%	10%	12%	14%
			目標	60,123.4	58,844.2	57,565.0	—	—
	原単位 (L/百万円)	1158.6	目標	1,112.3	1023.3	1,042.8	1,019.6	996.4
			実績	762.5	605.4	821.4	—	—
一般廃棄物排出 	kg	201.8	削減率	6%	8%	10%	12%	14%
			目標	189.7	185.7	181.6	177.6	173.5
			実績	181.8	179.2	267.9	—	—
産業廃棄物排出量 	t	3,640.8	削減率	6%	8%	10%	12%	14%
			目標	3,422.4	3,349.5	3,276.7	3,203.9	3,131.1
	原単位 (t/百万円)	4.1	目標	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5
			実績	2.5	3.5	2.8	—	—
総排水量 <small>井戸水はこの排水量に含まれていません</small>	m <sup>3</sup>	309.0	削減率	8%	10%	12%	14%	15%
			目標	284.3	278.1	271.9	265.7	262.7
			実績	369.0	338.0	317.0	—	—

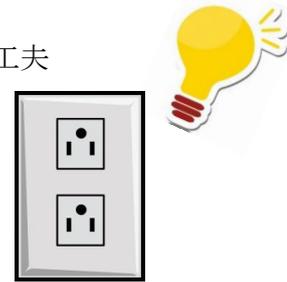
環境目標項目	単位	基準値		過去の実績		今年度	中長期目標	
		2012年度		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
グリーン購入の推進 	%	65.0	増加率	15%	17%	19%	20%	21%
			目標	80.0	82.0	84.0	85.0	86.0
			実績	40.0	73.0	78.0	—	—
ネプラス工法の推進 	千円	16,800 (2012~2014平均値)	増加率					
			目標	0	0	16,800	18,480	19,400
			実績	1,382	15,120	19,229	—	—
太陽光発電発電量 	kwh		増加率					
			目標	—	—	—	—	—
			実績	33,787	34,479	33,645	—	—

## 6. 環境活動計画

### 電力使用量削減

担当部署:総務部

- ① エアコンの温度管理  
冷房: 26℃      サーキュレータの活用  
暖房: 22℃      冷たい外気が入らないよう、ドアの開け閉めの工夫
- ② パソコン、プリンター等のスリープモードの活用
- ③ 昼休み時の消灯  
消灯時間: 12時~13時の1時間
- ④ ノー残業デーの徹底、クールビズの長期化
- ⑤ 時間外における部分点灯  
時間外勤務時における照明は、必要最小限の範囲のみとする



### 灯油使用量削減

担当部署:総務部

- ① 暖房機(ファンヒーター、ストーブ)の温度管理

使用期間	温度
11月 ~ 4月	21℃ + 2℃以下
- ② 灯油の給油時期の管理と使用前のフィルター等の清掃
- ③ 不使用時の電源オフ

使用しない期間	5月~10月
---------	--------
- ④ ウォームビズの実施
- ⑤ ブラインドの調節で太陽光を有効利用する(今年度ブラインドを総入替)

### ガソリン・軽油使用量削減

担当部署:工事部

- ① 車両の適正運転(エコドライブの推進)  
現場に見合った重機の選定、不必要な道具の積載禁止で車体を軽くする努力をする  
タイヤの空気圧のチェック  
環境に配慮した運転「エコドライブ」で燃費を向上させ、二酸化炭素などの排出量を減らす
- ② アイドリングストップの励行
- ③ 車両・建設機械の定期点検  
定期的な点検整備をして、燃費と安全性を向上させる  
オイル交換をこまめにして、燃費を向上させる
- ④ 効率的なルートを選択  
カーナビの積極的な利用で、効率的な営業ルートの策定をする
- ⑤ 建設機械の対策型機種 of 優先使用と購入の検討
- ⑥ 機械操作の向上
- ⑦ ハイブリット車に全車変更



## 一般廃棄物排出量削減

担当部署:総務部

### ①ごみの排出量の把握と管理

把握方法	ごみの回収前に必ず計量
------	-------------

### ②ペーパーレス化

複写機の機能(スキャナ機能、両面・集約印刷)を積極的に利用する

Faxをデータ受信。必要な物だけプリントアウトする

パソコンからの印刷の前にプレビュー画面で確認してから印刷してミスコピーの削減に努める

### ③リサイクルの徹底

社内書類は裏紙(機密文書は除く)を使用する

両面使用済の用紙はリサイクルにまわす

社内文書は使用済み封筒を再使用する

メモ用紙やスクラップ台紙への利用

### ④ごみの分別の徹底

従業員の分別意識が向上するよう、分かりやすくポスターなどを掲示

法定保存年限が経過した帳簿書類等は、随時処分する

### ⑤ゴミを持ち込まない

マイカップの利用や、再利用できる容器の使用(お弁当箱等)

### 廃棄物の重量の視覚化

ごみ分別時に重量を計測し表に記入することで、数値を視覚化する

## 産業廃棄物排出量削減

担当部署:工事部

### ①廃棄物の適正処理

マニフェストにより適正処理し、許可を受けた産廃処理委託業者に引き渡す

### ②産廃排出量の把握

把握方法	産業廃棄物管理票(マニフェスト)による把握
------	-----------------------

### ③分別のルール

現場	施工場所で分別してから運ぶ
第1資材ヤード	燃えるもの、廃プラ、木くず、金属くずに分ける

### ④3R活動

Reduce(リデュース) : 減らす

Reuse(リユース) : 再利用する

Recycle(リサイクル) : 再資源化する

## 総排水量削減

担当部署:総務部



- ① 日常的な節水  
節水のステッカーを貼り、節水の意識を高める
- ② 井戸水のメーターの管理  
※井戸水は排水量に含まれていない
- ③ 水漏れの点検と管理  
総務部で点検を行い、水漏れ等の不具合があった場合はすぐに対応する
- ④ 使用後は確実に栓を締める。水量を抑えるために元栓の調整をする

## ネプラス工法の推進

担当部署:工事部

- ① 受注先、現場でのネプラス工法の提案

公共工事	道路改良工事、側溝改良工事、道路維持修繕工事等
環境	建設廃材80%削減、掘削残土は100%削減、CO2排出量77%削減
リサイクル	側溝の使える部分(上部以外の部分)は利用

- ② ホームページで情報の公開

当社ホームページ <http://kk-aspec.co.jp> にて施工実績やネプラス工法について詳しく掲載

- ③ ネプラス工法の講習会への参加

講習会に出席することで、業界内での情報交換などを行う



## 太陽光発電 電力量の把握

担当部署:総務部

- ① 社屋1F・3F屋根に太陽光パネルが設置されている  
208.4W×129枚
- ② 毎月の電力量・売電金額を把握していく



## 7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### 二酸化炭素排出量削減

担当部署:総務部



目標	実績	達成率	評価
220,353 kg-Co2	204,897 kg-Co2	107%	◎

#### ◆取組結果

1. 昨年より排出量が増えてしまったが遠方の長期工期の現場が原因と思われる。目標を達成したことは評価できる。
2. 一人一人の認識が高まった結果である。

#### ◆総合評価

1. 今後も環境活動への継続的な啓蒙活動を進めていく。
2. 地球環境取組を続けていきたい。

### 電力使用量削減

担当部署:総務部



目標	実績	達成率	評価
33,727 kwh	29,066 kwh	116%	◎

#### ◆取組結果

1. 目標は達成する事ができたが、前年を上回る結果になってしまった。
2. 公共・長期工事の書類に時間がかかり時間外作業が増えてしまった結果である。

#### ◆総合評価

1. 所定労働時間内での業務ができるように効率の良い業務の割り振りや、日程調整ができるような取り組みをしていく。

## 灯油使用量削減

担当部署:総務部



目標	実績	達成率	評価
2,385 L	2,434 L	98%	○

### ◆取組結果

1.寒い日が続いたことと、時間外作業が増えてしまったことによる結果である。

### ◆次年度の取組

- 暖房機(ファンヒーター、ストーブ)の温度管理
- 灯油の給油時期の管理
- 暖房機器の点検清掃
- 不使用時の電源オフ
- ブラインド調節による太陽光の有効利用
- ウォームビズの実施

## ガソリン使用量削減

担当部署:工務部



目標	実績	達成率	評価
318.0 原単位(L/百万円)	233.6 原単位(L/百万円)	136%	◎

### ★総合評価

1. エコカー乗り換えにより使用量が削減された。
2. 乗合で移動できる場所は、乗合での移動をするようにした。

### ★次年度の取組

- 車両・重機の適正運転(エコドライブの推進)
- 車両・重機の定期点検
- タイヤの空気圧のチェック
- 低燃費車の購入と使用
- 不必要な道具の積載禁止による車体の軽量化
- カーナビの積極的利用による効率的な営業ルートの策定

## 軽油使用量削減

担当部署: 工事部



目標	実績	達成率	評価
1,042 原単位(L/百万円)	821 原単位(L/百万円)	126%	◎

### ★総合評価

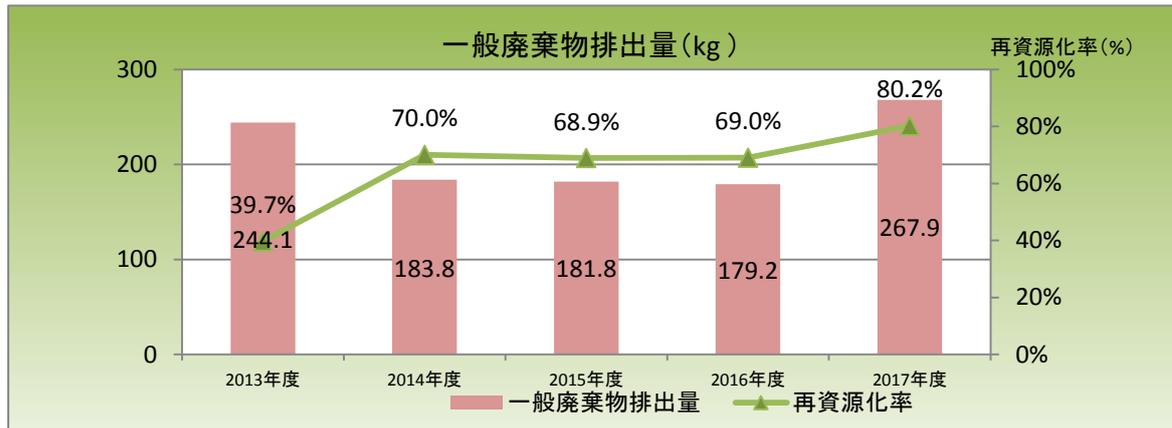
1. 乗り合いでいけるところは乗り合いにより移動、最短ルートでの移動に心がけた結果である。
2. 作業場所、工事量等に左右されるため使用量の削減は難しいが、引き続き削減に向け努力する。

### ★次年度の取組

- 車両・重機の適正運転(エコドライブの推進)
- カーナビの積極的利用による効率的なルートの策定
- 車両・重機の定期点検
- 排出ガス対策型機械の優先使用と購入
- 機械操作の向上

## 一般廃棄物排出量削減

担当部署: 総務部



目標	実績	達成率	評価
181.6 kg	267.9 kg	68%	△
		再資源化率	
		80%	

### ★総合評価

1. 前年に続いて事業系紙ごみを再資源化としたため、再資源化率は80%となった。
2. 2Fテナントが入るため、保存していた書類を処分したため排出量が増加した。

### ★次年度の取組

- ごみの排出量の把握と管理
- ごみの分別の徹底とごみを持ち込まない努力
- ペーパーレス化の推進
- 事業系紙ごみの再資源化率の表示と評価

## 産業廃棄物排出量削減

担当部署: 工務部



目標	実績	達成率	評価
3.8 原単位 (t/百万円)	2.8	136%	◎

### ★総合評価

1. 排出量は工事内容により左右されるが、従業員の分別意識の向上や残資材のリサイクルに努める。安全パトロールでの確認を行い、引き続き削減に努めていく。

### ★次年度の取組

- 廃棄物の適正処理
- 5R活動
- 産廃排出量の把握
- 分別のルール周知徹底

## 総排水量削減

担当部署: 総務部



目標	実績	達成率	評価
271.9 m³	317.0 m³	86%	○

### ★総合評価

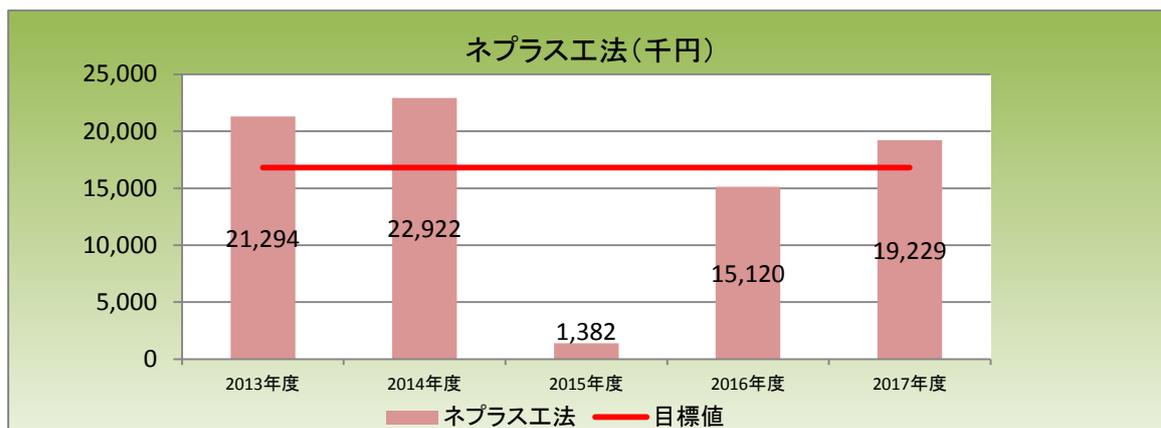
1. 前年同様、1階テナントの使用量が把握できないため、正確な水量が確認できなくなった。しかし、前年度と比較すると使用量の変化がほとんどなかったため、さらなる削減に努めたい。
2. 使用状況をチェックし、ルールを守ることで引き続き削減に取り組んでいく。

### ★次年度の取組

- 日常的な節水
- 水漏れの点検と管理
- 井戸水のメーターの管理
- 水量抑制のための元栓の調整

## ネプラス工法の推進

担当部署: 工務部



目標	実績	達成率	評価
16,800 千円	19,229 千円	114%	○

### ★総合評価

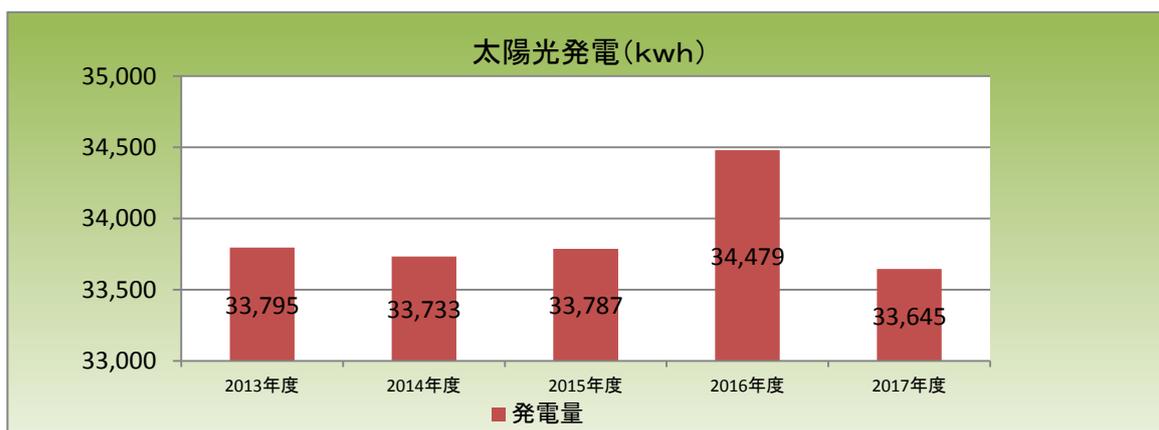
1. 昨年度までは受注件数で比較していたが今年度より受注金額で比較する事とした。  
目標値を上回る結果となった。

### ★次年度の取組

- 受注先、現場でのネプラス工法の提案
- ホームページで積極的に公開
- パンフレット等の活用

## 太陽光発電発電量

担当部署: 総務部



### ★発電量の把握

1. どのくらい売電しているのかデータを取り、グラフ化をして推移を見ることにした。
2. 天候に左右される為目標値は持たないが、売電量を知ること自然エネルギーへの関心を高める。

## 9. 環境関連法規制の遵守状況

### (1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

適用法	要求事項	遵守状況の確認及び評価の結果
廃棄物処理法	委託契約の書面	○
	マニフェストの管理	○
	実績報告書	○
	産業廃棄物収集運搬業許可証 (平成25年10月12日 更新許可)	○
資源有効利用促進法	再生資源利用促進計画書	○
建設リサイクル法	対象工事における再資源化等報告書	○
騒音規制法	特定建設作業実施届出書	○
振動規制法	特定建設作業実施届出書	○
フロン排出抑制法	簡易点検表による管理	○
自動車リサイクル法	引き渡し時における適正な処理(リサイクル券)	○
家電リサイクル法	引き渡し時における適正な処理(リサイクル券)	○
消防法	本来の使用目的以外で使用しない	○

### (2) 違反、訴訟等

環境関連法規の遵守状況は、6月に環境管理責任者を中心として確認し調べた結果、環境法規への違反はありませんでした。

また、関係機関からの指摘、違反、訴訟等はありませんでした。

## 10. 代表者による全体評価と見直しの結果

### ● 全体評価

(1)	環境方針 環境方針についての変更はありません。
(2)	環境関連法規等の遵守状況 2017年6月20日に実施した、法規等の遵守評価については問題ありません。
(3)	環境目標の達成状況 2017年度においては、目標は達成できたものの昨年度よりも一般廃棄物排出量、電力使用量、灯油については使用量が増加している。次年度は月毎の数値にも注意を払い管理する。
(4)	環境活動計画の実施状況 スケジュール通りに実施されています。
(5)	環境負荷の自己チェック結果 重機や車両にかかる、化石燃料の削減に重点をおくことが求められます。 引き続き、削減に努めて下さい。
(6)	外部からの苦情等への対応 苦情等はありませんでした。
(7)	その他

### ● 見直しの結果

1. 昨年度同様、化石燃料削減に向け、手直し工事ゼロを目標に施工を行っていきましょう。
2. 各自の技能向上により、作業効率をあげ、Co2排出量の少ない工事をめざしましょう。
3. 使用機械、車両の点検整備を行い、必要があれば、低排出ガス対策型の機械や、ハイブリッド車、低燃費車両の購入を引き続き検討する。
4. 残業の縮小や、休日の増加を行うことで、環境負荷を減少させることにつなげたい。  
就業時間が減ったことで、生産性が落ちることのないように、そのためにも、無駄を省いて、効率の良い作業をすることが求められます。  
また次年度より現場管理者にタブレット端末を購入し、事務所外でもクラウドから情報やデータを見て作業ができるように準備しています。  
それにより時間を有効に使い生産性が上がることを期待できます。
5. 全体的に目標を達成していますが、前年度よりも増加している電気量や灯油は事務所内での作業時間を有効に使えるように考えていく必要がある。  
エコに対してのひとりひとりの自覚が少し薄れているように感じる。もう一度研修会等を行い個々の関心を高めるようにしていきたい。